
監修者まえがき

本書の原題は『Option Volatility & Pricing (オプションボラティリティと価格決定)』であり、題名にあるように、オプションボラティリティの重要性とその活用法を中心にさまざまなオプション取引戦略に深く言及されています。本書を読むと、オプション取引という名の“ゲーム”がいかに株式投資や先物取引と違うかが分かるでしょう。オプション取引は“ゲーム”のルールがまったく違うのです。このゲームに勝つには、徹底的にオプションの商品としての特性と、オプション取引という“ゲームのルール”を理解する必要があります。これは、原市場が将来どう変動するかを正しく予測すること以上に大切なことなのです。本書には、その“ゲームのルール”と“ゲームのやり方”が詳細に描かれています。

本書では、第4章、第8章、そして第14章、第16章および第18章の5章分を割いてボラティリティとその活用法について詳細に述べられています。オプション取引の実践家である読者には、特にこれらの章を重点的に読んでほしいと思います。なぜなら、ここにオプション取引という名の“ゲーム”の本質が隠されているからです。

オプションの本質とは何か。読者が本書のページをめくる前に同じくオプション取引の実践家である私の持論を披露したいと思います。それは拙著『最新版オプション売買入門』（パンローリング刊）のなかで述べているので、それから引用したいと思います。

オプションは、「相場がどう変動するかはまったく予想できない」ということから出発しています。言い換えれば、将来どう変動するかを確率統計論に求めているのです。……ボラティリティはオプション価格決定に影響を与える最も重要な変数です。これはリスクを因るモノサシとしても使われます。オプション取引の実践家はこのような理

論を知っておく必要はないのかもしれませんが、ボラティリティの概念を理解することはとても大切です。

本書の著者ネーテンバーグ氏は自らの本を理論書ではなく、「実践書」であると言っています。しかし、これは非常に役に立つ「実践的な理論書」と言うこともできると思います。オプション取引の経験の浅い方がその内容のすべてを理解するには大変な労力を要することでしょう。オプション取引の実践家はぜひ本書を机の上に置き、「辞書」や参考書のように「取引実践のガイド」として活用されてはどうでしょうか。しかし、本書に書かれてあることすべてを理解する必要はありません。特に、複雑なスプレッド売買戦略の多くは、「取引コスト」のかからないフロアトレーダーだからこそできるものといえます。

最後に、翻訳者に代わって以下の断り書きを掲げておきたいと思います。翻訳は原文に即して行われていますが、英文をそのまま日本語にしても意味が通じない部分があります。それらについては原文の内容が損なわれないように、言葉を置き換えてあります。とりわけ、原文に多く出てくる「value」という単語は日本語で「価値」と訳すとニュアンス的に誤解を与える、本来の意味を伝えない、または本質的な意味からかけ離れると判断されるので、「時間価値」「本質的価値」というオプション特有の用語など以外は必要に応じて「価格」「損益」「潜在的利益」「(数) 値」などに置き換えています。また、オプション特有の用語で日本語に訳すと本来の意味が損なわれてしまうものについてはそのままカタカナで表記しています。その典型的な例が「ボラティリティ」で、ボラティリティの種類はすべてカタカナで表記しています。

本書を手にした読者のみなさんの幸運をお祈りします。

2006年5月黄金週間の最後の日に

増田丞美